



晴耕雨読の夢？

川村和幸



年を重ねると大変多く生じるであろう余暇（時間）をどの様に過ごすか？ 高齢化社会を迎えた今、自分がごく平均的な寿命の人間だとしたら、男性の平均寿命 80 歳位迄の約 20 年間の余暇の過ごし方を考える必要がある。今は、平日は勤めに出、週末はゴルフをしたり、ドライブで温泉に行ったり、そこそこ忙しい時間を過ごしている。しかし問題は、1 週間が極端に云うと今の「月月火水木金金」（言い過ぎ？）から将来的に「日曜日×7」となり、丸丸 1 週間が余暇となる時期の過ごし方である。

先日（2017 年 1 月）、日本老年学会等が、高齢者に関する定義の再定義についての提言を行い（準高齢者（65～74）、高齢者（75～89）、超高齢期（90～））、マスコミで報道され話題になっていた。昔に比べて、体力、気力とも大幅に向上した所以との事である。これも高齢化社会の益々の進展がもたらした一つの事象なのだろうが、自分も 80 歳位までは、健康で行けるかも知れない。

表題とした「晴耕雨読」は、かなり昔からわが高齢期の理想の姿である。還暦を少々過ぎたわが身に照らし、その現状並びに準備状況を報告させて頂く。

まず後段の「雨読」だが、50 歳を迎える少し前頃から、仕事上の書類、新聞は何とかなるが、小説等を長時間読むのは苦痛になって来た。何のことは無い、老眼の進行である。若いころ、自分の視力が 2.0 だ 1.5 だと自慢し、近眼の人の眼鏡を掛けねば見えない状況が如何なるものか想像もできなかったのだが…、今は反動がしっかり出てきてしまった。時間が出来たらゆっくり読もうと、好きな歴史小説の全集を揃え（既に購入済）、雨の日はのんびり読書する目論見が狂ってしまった。目が言うことを聞かなくなると、根気が続かなくなって来るものであり、余暇を過ごす上での二本柱のうち一本がかなり怪しくなってきた。

残るは前段の「晴耕」だが、こちらは少しづつ準備を整えて実践している。

義母が札幌から小 1 時間ほどの処（白老町）に居り、

様子を見に行くことが多くなったことから、近所に土地を借り家庭菜園を始めている。

隣町には日本有数の登別温泉が有り、付近は虎杖浜温泉と言ひ、家庭に温泉風呂を引いているお宅が多数ある。農作業後の汗流しが出来、そして湯治にもなり絶好のポジションである。

私の先輩が、札幌近郊で家庭菜園を楽しんでいることなども大いに刺激になっている。

農業は、全くの素人。子供の頃、親父に畑仕事を手伝わされていたが、如何にして逃げるかしか考えず、何も経験値として残っていない。頼りは、某公共放送局の趣味の園芸「野菜の時間」とテキスト、そして義母の知識のみである。耕作対象物は、種を播くだけなるべく手入れせずに収穫できるもの、この一言に尽きる。

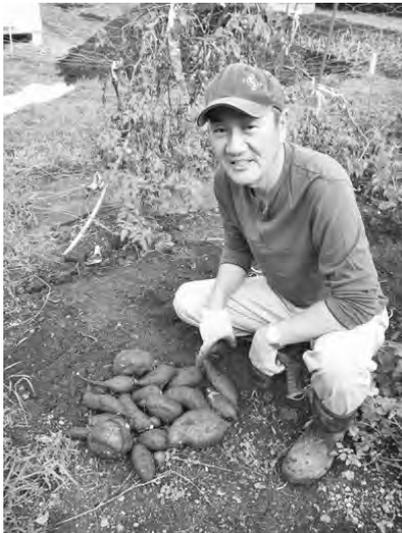
老後に向けて約 10 年ほど前から始めた「素人菜園」の、汗と涙の奮戦記で少しお目汚しをさせていただく。

まず最初に畑（というより隣地との境界付近）に植えたのが、うど（独活）である。灰汁の強い野生の独活、隣の藪にタラの木（タラの芽が採れる）も有るが、そのどこか貴族的なタラの芽より野性的な独活のてんぷらが自分は好きである。独活は作物と言えるかは分からないが、毎春、順調に天麩羅の具材を提供してくれている。

北海道では、ジャガイモを作らずに、農業をやっているとは言えないだろう。男爵イモにまず挑戦である。私の計算では、種イモを植えたら、沢山出てくる芽の「芽欠き」をし、最後に「土寄せ」この主要 2 工程をこなせばそこそこ収穫できる筈である。しかし、毎年虫との戦いとなる中で、しつこく芋づくりに励んでいる。虫は恐らくおけら（螻蛄）だと思われ、芋に掘った様な（ボーリングした様な）穴が多数開けられている。収穫物をご近所に配るが、良い物（穴の開いてない物）を配ると、自分が食するのは穴あきいも。農薬を撒きたくないし、これでも良いかと思っている。一方、なるべく虫に食われない芋を指向する中で、メーカーが比較的良さそうだと感触を得ている。此れ

からも研究である。

芋つながりで、薩摩芋にも挑戦してみた。最初の年は、蔓が一杯伸びて喜んでいたら、蔓返して何？（長く伸びた蔓を浮かせて、定期的に地面から引き剥がす事）程度の知識であり、数本取れただろうか？ 苦節？ 年、最高の成果が写真の通りである。



写真—1 薩摩芋と筆者

毎年、頑張って耕作しているのが大蒜（にんにく）である。雪国の秋田が名産地、当地で出来ない筈はない、との思いで作りに続けている。分かったことは、一番出来が良かった年は、植え付け前に穴を深く穿ち十分な肥料を入れ、更にしっかり追肥をした時と思われる。作物は正直です。（植え付け前の穴掘りがまた大変で、近年さぼりがち。）収穫の多少はあるが、我が家の食卓の欠かせぬ素材となっている。



写真—2 越冬中のニンニク

旭川の農家が落花生を生産し、マルシェで「茹で落花生」として販売しているTVを視た。落花生は千葉県？ 方面と思い込んでいたが、地球温暖化の時代、とうとう北海道でもと感心していた所、ホームセンターで落花生の苗を見つけてしまった。どんな花が咲くのだろう？ 落花してどうなるのだろう？ 苗を売って居るんだから白老でも生るのだろう…と思い、興味津々早速畑に植えてみた。へー黄色い花が咲いた！ なんか紐が地面と繋がっている！ 抜いてみるとちゃんと7～8個の落花生がなっていた。茹でてみたところ、風味も感じられ大変楽しめた！ 来年どうしましょう？

みょうが（茗荷）を書き忘れたら罰が当たりそうである。知識は、東京の茗荷谷はみょうがにちなんだ地名らしいとか、強い日差しを避け林の中で栽培している様子をTVで見た記憶程度である。ご近所から「根？」を頂き、畑に植えてみたところ、毎年そこそこの量（バケツ1つ程度）が収穫できている。林間で育てて居る訳ではないが、土地に合っているのかもしれない。お味噌汁に、酢漬けに、一部は冷凍にしており、大活躍である。

昨年の最新チャレンジは白菜である。野菜の価格の高騰もあり？ 育ててみることにした。種には「90日白菜」などと収穫までの大凡の日数が記されている。今回は8月のお盆前に、大根（大根は、この時期に種蒔きすると良いらしい。前年は遅れて盆過ぎだった所為か、結果は酷かった）と一緒にタイミングで種まきを行った。途中1度追肥を行ったが、上手く出来た玉でも売られて居る白菜の1/3程度の大きさであった。12月の半ば迄、もう少し大きくなれと畑に植えたままに放置し、防寒用に縄で縛ったりしていた。寒気に当たると、自己防衛で甘くなるとの雑学からである。収穫後、物置に新聞紙で包んで置いていたらカチカチに凍っていたが、解凍して食べても柔らかく、意外に美味しい。冷凍が効くのでかみさんの評判も良く、冬の鍋物に重宝している。種蒔き後の90日目が11月の半ばは、矢張り無理があるのだろう。次回は、早めの種まきで再挑戦である。

豆類では、大豆（枝豆）、モロッコ隠元などに挑戦している。良い年もあり、悪い年もある、天候に影響されることは致し方ない。しかし近年、わが畑は、えぞ鹿との戦いが始まっている。北海道内には数十万頭いるらしいが、わが畑の近隣にも相当数がうろついて



写真—3 防獣柵（鹿避け）

いる。頂いた漁網などで侵入防止柵を作ったりしているが、何回も正面突破されている。当然収穫は見込めず、ビールのおつまみがスーパーから購入の冷凍枝豆に代わってしまっている。その対策が自慢の鹿侵入防

止柵であり、これだけやれば十分の筈だったが、今度はネットをくぐってアライグマか何かが侵入してきているらしい。畑を見に行くたびに、畑の枝豆の一角からドミノ倒しの如くだんだん豆が消えていくのを見るのは悲しい限りである。アライグマ?の侵入防止に向けて戦いの始まったところである。

カラスとの戦い等々、まだまだ話題はあるがこの程度で留めておく。白老と言うところは、夏場日照が少なめで、雨がちな地域である。競走馬の牧場が近くにあるのは、畑作にはあまり適さないためだろう。そのため基本的に畑の豊作は期待できないが、重要なのは楽しむことだろう。好奇心旺盛にいろんな品種に挑み、自分の体力に合わせ耕作し、シカとの戦いに知恵を絞り、おけら（螻蛄）の食べ残しを収穫し、新たな敵の出現に備える。知恵を絞っている限り老けないのではないか、健康寿命を少しでも長くして余暇を楽しみたいものである。

—かわむら かずゆき 荒井建設(株) 副社長（北海道旭川市）—

